

美術史学コース

【コースの特色】

美術史学コースは、洋の東西や時代を問わず、基本的には美術史の研究者、専門家を養成するための教育機関であり、また美術館、博物館などの学芸員となるための専門的かつ実践的なディシプリンを提供する。視覚イメージが広く氾濫する今日的な環境においては、古今東西の美術作品を深く研究し、通暁することは文化、文明への洞察に不可欠な仕事であろう。コースは日本・東洋・西洋の三領域に分かれており、7名の専任教員が指導に当たっている。

本コースは、1939年、書家、歌人としても高名な秋艸道人こと會津八一先生が初めて東洋美術史の講座を開設して以来70余年の歴史を誇り、これまで数多くの学者、専門家を輩出しており、伝統はもとより内容においても、我が国有数の美術史学専門の教育機関である。オーソドックスな研究者はもとより、美術史という枠組を超えたユニークな専門家も多数出ているところが「早稲田美術史学」の大きな特質であろう。

【語学力と目の力】

美術史学は、一方で文字資料の読破が必須とされると同時に、もう一方では、つねに「目の鍛練」、すなわちしっかりと作品に対峙し、目による理解と判断を積み重ねなければならぬ。広く、深く文字資料を読みこなす語学力を徹底的にたたきこむことを肝に銘じてほしい。そうした文字資料を手がかりに、無数の作品を見、目に記憶させ、「目の力」をつけなければ、美術作品の判別はできないのである。

【入試】

入試に関しては、一般外国語のほかに、自身が志望する専門領域の知識だけでなく、日本・東洋・西洋各領域における美術史についての基本的な素養が要求される。専門家になるためには専門領域のみならず、広く美術史学を理解しておく必要があると当コースでは考えている。さらに、日本美術はくずし字と漢文を、東洋美術は漢文を、西洋美術はヨーロッパ二言語（英語、仏語、独語から選択）を通しての資料読解が課せられる。

【主な進路】

美術館、博物館、教育機関、出版社など

【専任教員の専門分野・著書など】

- 肥田路美： 仏教美術史、中国美術史
『初唐仏教美術の研究』・『浄瑠璃寺と南山城の寺』
- 川瀬由照： 日本彫刻史、文化財学
『東大寺・正倉院と興福寺』・『十二支』
- 児嶋由枝： 西洋美術史・西欧中近世美術史・キリシタン/南蛮美術史
- 坂上桂子： 近代美術史、モダン・アート
『夢と光の画家たち：モデルニテ再考』・『ベルト・モリゾ：ある女性画家の生きた近代』
- 成澤勝嗣： 近世日本絵画史
『太閤秀吉と風俗画のあやしい関係』・『江戸の文人社会と『南蘋派』趣味』
- 益田朋幸： 西洋美術史、ビザンティン美術史
『ビザンティンの聖堂美術』・『描かれた時間』
- 山本聡美： 日本古代・中世絵画史
『九相図をよむ 朽ちてゆく死体の美術史』・『中世仏教絵画の図像誌』

* 進学についてのご質問、ご相談は、教員もしくは助手まで、直接お尋ねください。

* 美術史コース室：早稲田大学戸山キャンパス 39 号館 2 階 2201